

きものびと

十人十彩

じゅうにんといいろ

吉田美保子さん

染織作家 そめおり 染織 吉田

仕事で、趣味で、和が好きで――。
きものとつながる人々の、ちょっといい話を紹介します。



現代アートかプリミティブラートのような印象がある、カラフルな吉田美保子さんの帯。刷り込み絣の技術を取り入れた「グラッシングカラーズ」で制作される作品は、いま人気急上昇中です。紅余曲折を経てここまで来て、まだまだ変化を予感させる、明るくおおらかな吉田さんの作家ストーリーです。

迷いの季節

小さい頃から絵を描くことが大好きでした。造形大へ進んで絵画を学んでいたのですが、なんか違うと感じ始めて結局中退して英國のスコットランドへ渡りました。

なぜヨーロッパで、なぜスコットランドだったのか

若気の至りだつたんでしょうね笑。そこで英語を学びながら、絵や版画や立体に取り組んでもました。何かを創りだしたいという、湧き出るような熱っぽさはありました。自分はものを作り人間だと信じ込んでましたし。でもどこを出口にしたらいのかわからない。いまにして思えば、マグマの噴出し口を求めていた時期だったと思います。

しかし、結局ヨーロッパでも、私にとって、生きることと作ることの合点の行く接点を、見出すことはできませんでした。帰国してからも、ガラスや陶芸などもやりましたが、もがくばかりで「出会い」はなかった。

一色を使うことが好きなんです。そ

して近代的な工芸より、大地とつながるような根源的なものや、現代のアーティストイックなものが元々好きだし、そう言うものを作り出したいと思うようになつました。

織りとアートの出会い

20代前半に、ふとしたご縁から、大分の山奥で草木染めをして着尺を織つている高野さんという作家さんを訪ねたことがありました。このとき、「ああ、やつ」と出会つたと実感がありました。その時はご縁をつなげることが出来なかつたのです。

その後、大阪の手織りの会社へ就職しました。教室の運営などをしながら自分で織つていたのですが、もつと本格的な織りをしたいと、会社を辞めて大分の高野さんを再訪し、受け入れていただきました。お宅の前の空き家に住んで、織りや染めの基本的な知識や技術を教えてもらいました。

高野さんの作品は、無地や縞や格子な

どのシノプルな着尺。そこには計算づくのデザインも作為もありません。周りの草木で糸を染めて織る。あるがままの自然と体化した作品でした。すばらしいと思い、相当長い間取り組んでいましたが、でもそれを自分のものにすることは出来なかつた。結局私は自分の「作為」を布に表現したかったんだと思います。後になつてやつと合点がいったのですが、私の「生み出したいもの」はキャンバスと絵筆では作れなかつたんです。絹糸と緯糸を交差させ作る、これだつたんだなつて。このことに思い至つたのは、何年も後のことです。

独立へ踏み出した日

話は前後しますが、私は勤めながら織つていた時期も長いんです。アジアの布を扱っている会社で、とても勉強させていただきました。お宅の前の空き家に住んで、織りですが、勤めも6年目になつた時、織りで勝負をかけるなら今しかないと、退職して独立しました。

しばらくは、在職時のままのせまいアパートで制作していましたが、帶用の絹糸、前後を含め約7m強をまつすぐ張れる場所を探して、引っ越しました。糸染めも織りもすべてそのアトリエで行っています。

独立してからは思いついたアイデアをどんどん試してみました。現在の「ブラッシングカラーズ」も独立してから考案したんです。

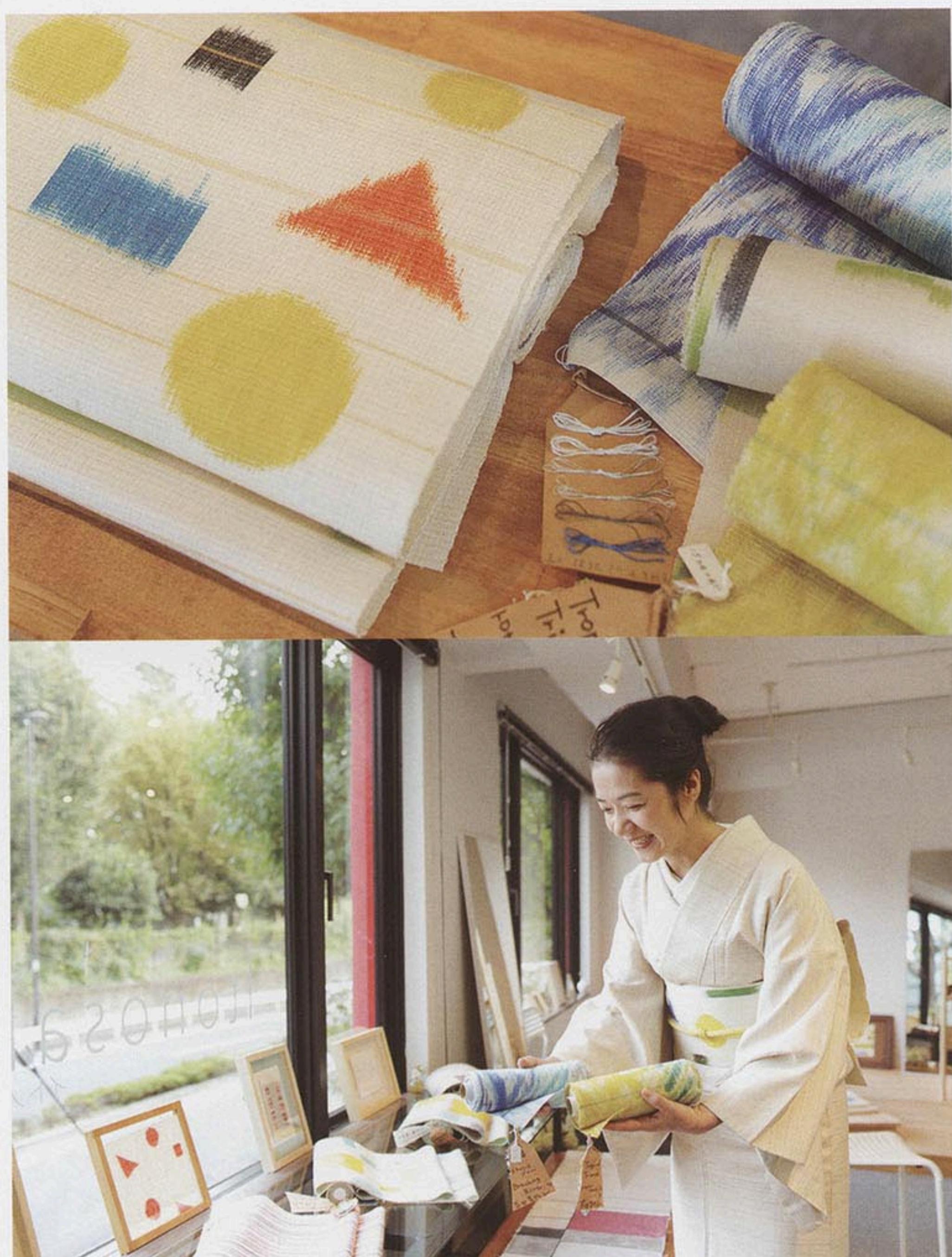
いろんなことを一度決まりごとを取つ払つてやつてみたら、そうか、自由でいいんだと思いました。

●ブラッシングカラーズ

「ブラッシングカラーズ」、いわゆる刷り込み絣です。染料を絹糸に刷り込むよう染めてから、もう一度巻き直して、緯糸を入れていきます。元々の刷り込み絣と原理は同じですが、自分の作品にふさわしい方法を取捨選択していく、いまの方法に行き着きました。ブラシ（刷毛）や筆を使って染めるのでブラッシング

カラーズと名付けました。

下図は納得いくまで何度も作り直しますし、試し染めも試し織りも繰り返します。しかし試し通りには行かない。緯



糸を織り始めると微妙にズれていく。その意外性も「染織 吉田」らしさと思っています。

独立して12年。着尺を織るのも好きで

ます。

すが、今年は帯が多かつたですね。サイトを見てのお問い合わせや、口コミでのご注文 リピ タ が多くてありがたいですね。only only と名付けています



が、完全注文制作にも力を入れて取り組んでいます。お客様に直接、どんなきものや帯を身に着けたいと思ってらっしゃるか詳しくお伺いし、デザインや布の表

情を相談しながら決め、その一枚のためには糸を選び、染め、織ります。

先日、5年ぶりの個展を南青山のイトノサキさんで開催しましたが、もう、ヘトヘトになりました

(笑)。このために作品の点数を揃えなければならないので、必死に作りました。個展のタイトルを角 吉田 にしたのは、なにはともあれ、おもしろいからです。尖つてて、飛んでつちやいそうで、勢いあつていいでしょ。八寸帯に 角を飛ばしたかったです。

染織 吉田 のきものや帯のきもの姿を見せていただくと、奮い立ちますね (笑)